

令和4年7月6日

折立中学校保護者の皆様
折立中学校区地域の皆様

仙台市立折立中学校
校長 村上 秀樹

令和4年度 協働型学校評価の三者協働による具体的な改善活動への取組について

向暑の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動への御理解と御協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、本校では、仙台市全体で取り組む「協働型学校評価」を取り入れております。協働型学校評価とは、学校による自己評価及び学校関係者評価を通じて、学校・家庭・地域が協働して重点目標を設定し、生徒のより良い姿の実現に向け、学校・家庭・地域が協働して取り組み、その成果を確かめる改善活動です。今年度も、本校教職員をはじめ、保護者・地域の方を含める学校関係者評価委員会で検討し、重点目標について決定いたしました。

つきましては、今年度の協働型学校評価の重点目標等について、下記のとおりお知らせいたしますので、保護者・地域の皆様の改善活動への取組について、御協力いただきますようお願いいたします。

なお、改善活動については、改善結果について変化を確認するために、12月に教職員及び生徒の自己評価、並びに保護者・地域の方によるアンケートを実施する予定がありますことを、申し添えます。

担当	仙台市立折立中学校 教頭 大場 陽子
TEL	(2 2 6) 1 4 5 1
FAX	(3 0 2) 1 3 6 2

令和4年度 仙台市立折立中学校 学校経営方針

校訓	「自主」	他人の保護や干渉を受けず、自分の判断で行動すること。
	「自律」	他からの支配や助力を受けず、自分の行動を自分の立てた規律に従って正しく規制すること。
	「向上」	能力・性質・程度などがよりよくなること。

1 学校教育目標 【どのような生徒を育てるのか。】

「社会の中で、自分で考え、判断し、行動する生徒の育成を図る。」

2 学校教育の柱 【新学習指導要領を踏まえて】

(1) 新しい時代に必要とされる資質・能力の育成と学習評価の充実

- 生きて働く知識・技能の習得、活用
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

(2) 社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

(3) 新しい時代に必要とされる資質・能力を踏まえた目標・内容の見直し

(4) 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習過程の改善

3 育成すべき生徒の力 【生徒にどのような力をつけるのか。】

● 自立する力（主体的な学び・確かな学力）

自立した人間として広い視野と高い志を持って、主体的に学びに向かい、自らの個性や能力を伸ばし、人生を切り開いていく。

● 他者と関わり協働する力（多様性の受け入れ・他者との協働）

対話や議論を通して、自分の考えを伝えるときにも、他者の考えを理解し、自分の考えを深め、発展させ、思いやりを持って協働していく。 ハートフル折立中

● 社会の中で向上する力（社会の一員としてのたくましさ）

変化の激しい社会の中でも、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていく。 地域連携

4 指導の基本姿勢

● 自ら変わり、伸びゆく教職員

→研修の充実。（特にOJT）

● 生徒と関わり、気付く教職員

→生徒理解に始まり、生徒理解に終わる。

● 指導と支援を両立する教職員

指導力の向上

- ◆ 具体的な「目的・目標」「方法・手立て」
- ◆ 環境づくりが重要
 - ・物理的（教室・道具）・計画的（準備、内容）・意図的（目的・評価）

● チームで動く教職員

3つのワーク「フットワーク」「チームワーク」「ネットワーク」

5 協働型学校評価到達目標

「学校が楽しく、目標に向かってチャレンジする生徒の育成」

(1) 授業に意欲的に取り組んでいる。

(2) 家庭学習に主体的に取り組んでいる。（自主性・計画性・継続性）

(3) 地域の方々と明るく挨拶を交わしている。（地域貢献、地域活動、防災・ボランティア活動等）